

大学におけるキャリア教育プログラムの事例調査

	宇都宮大学（国公立）	広島大学（国公立）	法政大学（私立）
設置学部	文系・理系 (国際学部、教育学部、農学部、工学部)	文系・理系 (総合科学部、文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、生物生産学部)	文系・理系 (法学部、文学部、経営学部、国際文化学部、人間環境学部、キャリアデザイン学部、デザイン工学部、GIS(グローバル教養学部)、経済学部、社会学部、現代福祉学部、スポーツ健康学部、情報科学部、理工学部、生命科学部)
学生数	4,156名(2014年5月1日現在)	10,959名(2014年5月1日現在)	27,115名(2013年5月1日現在)
キャリア教育の取組方針、導入経緯等	・キャリア教育への取り組みとは、教育本来の役割で、教育そのものであり、キャリアセンターだけが実施するものではなく、各学部の専門教育の中でも行うものとの考えている。将来の職業や進路選択に関する動機付け・関心は、まさに学びへの動機付けであり、各学部の教育の中で行っていくものである。	・教育を通して得た知識を社会で活かし、どのように生きていくかを考える機会を、入学後の早い時期から学生が享受できるように様々な形態のキャリア教育を実施している。 ・理系の大学院進学率が高く、より専門的な知識を得る大学院生のために、大学院でのキャリア教育も充実を目指している。	・「キャリアとは自分らしい生き方である」ととらえ、入学時から全学生を対象にキャリア形成をきめ細かくサポートできるようにさまざまな支援を実施している
キャリア教育の特徴	キャリア教育とは大学教育そのものであるとの考えから、 ①「4年一貫」の実践、②キャリア教育を、基盤教育や各学部で行われる授業、キャリア教育・就職支援センターによる各種プログラム、各学部による就職ガイダンスなどによって構成していること、③生き生きとした事実に触れ現実社会を正しく理解するとともに、視野を広げること、及び主体性や起業家精神を養うことを基本的なキャリア教育の目指すところとしており、そのために後述のような産業界や地域との連携の下にユニークなプログラムを展開していること、④キャリア教育と就職支援を一体として取り組む体制とし、その中で教員と職員が一体となって取り組んでいること、専任教員だけでなく各学部の教員もキャリア教育に参加させようとしていること、⑤こうした教育を通じて、結果的に学生に就職する力を身につけさせようとしていること、⑥各種授業やプログラム、課題解決・発見型の長期チームインターンシップなど産業界や地域との連携を図っていること、⑦就職先が内定した学生による自主的な後輩の就職活動支援を行う就活応援団(JUST)や、1、2年生チーム(WILL)など学生の力を活用していること、が特徴である。	①全国の国立大学に先駆けた、全学的なセンターの設置 1998年5月に全国の国立大学に先駆けて、全学的な就職支援組織として「学生就職センター」を開設。2004年に「キャリアセンター」(現在は「グローバルキャリアデザインセンター」)に改組し、入学時から将来に向けたキャリアデザイン支援に取り組んできた。 ②全学部・全学年に開かれている教養教育科目のなかに「キャリア教育領域」を設け、キャリア教育科目の一部をそこに位置づけている(「職業選択と自己実現-自分のキャリアをデザインしよう-」「キャリアデザイン概論」を開講)。その他、各学部で20程度、キャリアに関連する科目を開設。	①キャリアデザイン学部の設置 自分自身のキャリアデザインはもちろんのこと、他者のキャリアデザインを支援する専門家が求められているという認識の下、2003年に日本で初めてキャリアデザインを専攻とする学部を設置 ②産学連携3D教育プロジェクトの実施 文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」(2012年度)に、法政大学を含む18大学による「首都圏に立地する大学における産業界のニーズに対応した教育改善」が採択され、取組を開始 ③キャリアセンターの取組 3年次から始まる就職活動支援という狭い概念には限定せず、入学時から全学年を対象に、キャリア形成のサポートを実施
特色あるキャリア教育プログラム1			
1. 名称	「人間と社会」	「職業選択と自己実現-自分のキャリアをデザインしよう-」	「キャリアデザイン入門」(A教員担当分)
2. 概要			
①開講学部	全学部	全学部	市ヶ谷キャンパス文系7学部
②正課・非正課の別	正課(全学部)	正課(一部学部で)	正課(一部学部)
④必修・選択の別	選択(選択必修)	選択	選択
⑤配当年次・学期	1～4年次・前期	全学年・前期/後期	1年次・春学期
⑥時間数	15週	15週	15週
⑦単位数	2単位	2単位	2単位
⑧クラス数	2クラス(2キャンパスで1クラスずつ開講)	3クラス	6クラス
⑨履修者数	約50名(昨年度)	約300名(2014年度)	約970名(今年度、6クラス合計)
⑩担当者・人数	専任教員(実1名)	専任教員(実1名)	専任教員(延べ6名・実3名)
⑪実施主体	キャリアセンター(教職一体部門)	キャリアセンター	教学
3. キャリア教育の中での位置づけ	・同大学のキャリア教育は、Iキャリア教育関連授業科目(単位科目)、II授業以外のキャリアフェスティバルや課題解決・発見型インターンシップなどの各種プログラムの2つによって構成されている。Iはさらに、1. 全学生(学部・院)を対象に基盤キャリア教育科目及び教養科目として行われている科目と、2. 各学部の専門教育の一環として行	・本プログラムを含むキャリア教育科目の一部は、全学部・全学年を対象とする教養教育科目に位置づけている	・産学連携3D教育プロジェクト実施に伴い、正課科目として合計16科目(2014年度)が開設されており、本プログラムもその1つに位置づけられる

	宇都宮大学（国公立）	広島大学（国公立）	法政大学（私立）
	<p>われているキャリア教育関連科目により構成され、Ⅱは、</p> <p>1. キャリア教育・就職支援センターによるもの（全学対象共通）のプログラム、2. 各学部ですで行われてきたキャリア教育的な授業や就職ガイダンスなどにより構成されている</p> <p>・本プログラムは、Ⅰ－1. の中の「基盤キャリア教育科目」に位置づけられる</p>		
4. 授業の概要	<p>・働くことを考え、進路を選択する時に基本となる産業・企業経営の動向、雇用・労働の実態と問題、働く者を守る仕組みなどについて、最新の情報を学生目線で解説。社会と自分の関わりを考える手がかりを与える基礎科目（身近なフリーターへのインタビューとグループ討議や企業人・OGOBの講義を含む）</p>	<p>・「自己理解」と「社会環境理解」によって、自分自身のキャリアをデザインすることを授業の狙いとしている</p> <p>・「自己理解」に向けて2つのアプローチ方法を採用している。心理学的アプローチでは簡単なチェックリストの実施、社会学的アプローチではグループワークを通して、対人関係の中での自己に気づかせる方法を採用している。「社会環境理解」に向けては、ビデオ視聴、社会人基礎力に関する講義、フリーターについての話し合い等を実施している。</p> <p>・自身のキャリアデザインを考えるヒントを得るため、内定を得ている学部4年生や大学院修士2年生へのインタビューを取り入れグループでの発表も実施している。</p> <p>・「私の履歴書」として各界の著名人の講話や、若手の先輩の講話の回も設定。</p>	<p>・参加型授業という設計の下、社会人とは何か、社会にはどのような業種・職種があるのかなどの点について扱い、全15回の授業で、毎回何らかのグループワークを実施</p> <p>・毎回の授業で、リアクションペーパーを提出</p>
5. 授業の構成	<p>(全15回)</p> <p>1. インTRODakション（授業のねらい、授業計画等）</p> <p>2. いま、はたらくとは何か（現実を認識し、働くことの意味を問い直す）</p> <p>①若者の雇用・失業の現実とその対応（高水準の完全失業率・離職率、ニート・フリーター問題を考える、など）</p> <p>②産業・職業の動向、企業の経営・人事戦略の変化と企業の求める人材、働き方の多様化（「終身雇用」の変化、就業・雇用形態の多様化、など）</p> <p>③働く人の側の変化（高齢化・少子化、女性の進出、など）</p> <p>④今、会社はどうなっているか、若者へ何を期待するか（企業の人事担当者などのゲストスピーカーを予定）</p> <p>⑤ベンチャー企業等新規創業の役割と実態（ベンチャー企業等新規創業の役割と実態、起業家精神育成教育（小・中・高校生向けプログラム）、創業支援策など）</p> <p>⑥男女の雇用機会均等、仕事と生活の調和に向けての取り組み</p> <p>⑦働くときに必要な労働関係の法制度・政策（働く者を保護する法制度や仕組みと実態、労働組合の活動、様々な雇用対策）</p> <p>3. 職業とは、働くとは、キャリアとは（自分らしい生き方、キャリア形成に向けて）</p>	<p>(全15回)</p> <p>1. インTRODakション</p> <p>&lt;自己理解&gt;</p> <p>2. 自分自身を知る1 心理学的アプローチ</p> <p>3. 自分自身を知る1 社会学的アプローチ</p> <p>4. 先輩へのインタビュー</p> <p>&lt;社会環境理解&gt;</p> <p>5. ライフプラン1「恋愛」と「結婚」</p> <p>6. フリーター・ニート あなたはどう考える</p> <p>7. ライフプラン2「仕事・職業」社会が求める人材像</p> <p>8. ワークライフバランスとジェンダー視点</p> <p>9. 先輩へのインタビュー グループ発表</p> <p>&lt;キャリアデザインの実践&gt;</p> <p>10. キャリアデザイン理論の概要</p> <p>11. コミュニケーションと自己表現力</p> <p>12. 社会で活躍する人の話を聞くー私の履歴書ー1</p> <p>13. 社会で活躍する人の話を聞くー私の履歴書ー2</p> <p>14. 自分自身のキャリアデザイン</p> <p>15. まとめ</p>	<p>(全15回)</p> <p>1. インTRODakション（授業計画と成績評価基準の確認）</p> <p>2. グループワークⅠ「創造力」（社会が求める資質・能力の理解とワークへの取組）</p> <p>3. お金・新聞の役割と社会の場で必要とされること（テキストに沿った解説）</p> <p>4. 仕事の現場を知る（教材ビデオの観賞）</p> <p>5. グループワークⅡ「発信力」（ワークへの取組）</p> <p>6. 労働の意義と自分との関係（テキストに沿った解説）</p> <p>7. グループワークⅢ「実行力」（ワークへの取組）</p> <p>8. 経済の理解と自分の働き方（テキストに沿った解説）</p> <p>9. 仕事の現場を知るⅡ（教材ビデオの観賞）</p> <p>10. 企業の理解と自分の就職、業種、職種の理解（テキストに沿った解説）</p> <p>11. 企業内でのキャリアデザイン（外部講師による講演）</p> <p>12. 仕事の現場を知る（教材ビデオの観賞）</p> <p>13. 社会人に求められるもの（テキストに沿った解説）</p> <p>14. グループワークⅣ「課題発見力」（ワークへの取組）</p> <p>15. まとめ（全体の振り返り）</p>
6. 産業・職業の理解を高める上での工夫点	<p>・現実を認識し、働くことの意味を授業で問い直す。産業・職業の動向、企業の経営・人事戦略の変化と企業の求める人材、働き方の多様化などを授業で取り上げている。</p> <p>・講義形式だけでなく、インタビュー、グループワークや、企業人等の外部講師による講義等を取り入れている</p> <p>・専門的でレベルの高いことをかみ砕いて伝える</p> <p>・「ブラック企業」という言葉や、ネットの情報に踊らせら</p>	<p>・「私の履歴書」の授業回で、著名人を講演者として招聘。また、若手の先輩の講話の回も設けている。</p> <p>・内定を得ている学部4年生や大学院修士2年生へのインタビューを実施。進路先、進路先決定の理由、進路先でやりたいこと、学生時代に力を入れたこと、学生時代にすべきことなどを聞く。</p> <p>・一番身近な社会人として、学生自身の保護者にインタビュ</p>	<p>・テキストを使用する授業では、ただテキストを読み進めるのではなく、企業の現場の実態など+αの部分に関して、説明を加えている</p> <p>・教材ビデオを用いて、座学では把握しづらい、実際に働く場面についての実感を促している</p>

	宇都宮大学（国公立）	広島大学（国公立）	法政大学（私立）
	れるのではなく、学生に自分の頭で考えるよう仕向ける ・身を守る術としての労働者保護の法制度・対策、労働組合等の理解を取り上げている	一ということも取り入れている。	
7. 使用するツール	・キャリアマトリクス（学生に大変好評であったが廃止により実施できなくなった）	・テキスト：森玲子,2010『キャリアデザインノート 第四版』（広島大学キャリアセンター発行） ・チェックリスト（オリジナル） ・エゴグラム、ジョハリの窓、ホルランドの六角形モデルなどを取り入れた教材（オリジナル） ・以前はキャリアマトリクスも使用していた	・テキスト （有田五郎他, 2009『実学 キャリア入門：社会人力を体感する』学文社.） ・働く力教材ビデオ（独自開発） ・リアクションペーパー
<b>特色あるキャリア教育プログラム2</b>			
1. 名称	「キャリアデザイン」		「キャリアデザイン入門」（B 教員担当分）
2. 概要			
①開講学部	全学部		市ヶ谷キャンパス文系7学部
②正課・非正課の別	正課（全学部）		正課（一部学部）
④必修・選択の別	選択（選択必修）		選択
⑤配当年次・学期	1～4年次・後期		1年次・春学期
⑥時間数	15週		15週
⑦単位数	2単位		2単位
⑧クラス数	2クラス（2キャンパスのうち1キャンパスで開講）		6クラス
⑨履修者数	約38名（昨年度）		約970名（今年度、6クラス合計）
⑩担当者・人数	専任教員（実1名）、キャリアカウンセラー（1クラス1名ずつ）		専任教員（延べ6名・実3名）
⑪実施主体	キャリアセンター（教職一体部門）		教学
3. キャリア教育の中での位置づけ	（1と同じ）		（1と同じ）
4. 授業の概要	・講義のほかに、企業人の話、自己理解のための演習、キャリアフェスティバルへの参加、自分のキャリアモデルへのインタビューとグループでの話し合い等様々な体験を通じて職業や企業の理解、働くことや自分についての理解を深め、コミュニケーションなどの力を高め、大学時代にやるべきことを理解する。将来を考え自らのキャリアデザインを具体的に描くためのきっかけ、知識、方法等を提供する基礎科目		・講義だけではなく、グループ・ディスカッション、外部講師を招いたトーク・セッションなど複数の授業スタイルを組み合わせた内容になっている ・毎回の授業で、リアクションペーパーを提出させ、採点・し、それを返却している。返却後のリアクションペーパーに対して、自己評価を行わせ、「なぜそうした自己評価をしたのか」についても課題を課している
5. 授業の構成	（全15回） 1. イントロダクション（授業のねらい、授業計画等） 2. 働き方の多様化（講義） ・企業の経営・人事戦略の動向、働き方の多様化、など 3. キャリアフェスティバルへの参加 （経済のグローバル化、現下の厳しい経営環境の中で、今企業はどう変わりつつあるのか、若者に何を期待しているのかについて、直接企業から話を聞く（レポート作成）） 4. いろいろな働き方 （キャリアフェスティバルで感じたこと、わかったこと（グループワーク）） 5. 若年者の雇用・失業問題の実態とその対応（講義） （高止まりの完全失業率・離職率、フリーター、ニート問題、派遣・請負の問題、それらの対応策など） 6. 職業とは、働くとは、キャリアとは（講義） （自分の将来の生き方、進路を考えるとときに必要な基本的なことを学ぶ） 7. 自分を知る （自分を振り返る、5年後、10年後の自分を考える）		（全15回） 1. ガイダンス（受講前アンケートの実施） 2. キャリアの定義と社会環境変化（アンケート集計、キャリアとは何か、社会環境変化とキャリア） 3. グループ・ディスカッション演習1（グループ・ディスカッションのスキル（基礎）、組織の意思決定スキルの学習） 4. キャリア開発の歴史（キャリアと時代、キャリアカウンセリングの歴史、キャリア発達・開発の理論） 5. 自己分析と自己理解（自分を知るための3つの鏡、キャリアアンカー、自分自身の2面性、キャンパスライフにおける自己分析と自己理解） 6. 社会人キャリアトーク・セッション（企業が求める大学生像、社会人と話そう（外部講師：音楽業界企業採用担当者）） 7. グループ・ディスカッション演習2（グループ・ディスカッションのスキル（応用）、大学の学びは、どう社会で生きるのか？） 8. キャリア形成に必須のコミュニケーション・スキル（コミュニケーションの構造・プロセス、コミュニケーション・スキル） 9. キャンパスライフを通じたキャリア形成（戦後のキャンパス

	宇都宮大学（国公立）	広島大学（国公立）	法政大学（私立）
	<p>8. 産業・職業を知る</p> <p>9. 自分と職業について考える、働く意味を考える (以上の3コマはキャリアカウンセラーが担当)</p> <p>10～11. 働くって？働くことの先輩であるゲストの体験・思いを聴く（企業の中堅管理職及び2、3年生のOGOB）</p> <p>12～14. わたしにとってのキャリアモデル (自分にとっての生き方のモデル、気になる生き方の人、反面教師…と向き合う（インタビュー、グループワーク、発表を体験する）)</p> <p>15. まとめ (自分にとって働くとは何か、これからどんな学生生活を送るか、どんな就職活動をするか)</p>		<p>ライフの変遷、サークル活動)</p> <p>10. キャリアとロジカルシンキング（幸せになるためのロジカルシンキング、ビジネスのためのロジカルシンキング、就職活動のためのロジカルシンキング）</p> <p>11. 社会人キャリアトーク・セッション（就職から企業へのキャリア、社会人と話そう（外部講師：雑誌編集企業社長））</p> <p>12. グループ・ディスカッション演習3（変化する仕事と労働者の雇用形態、仕事に関する法律、コミュニティ型社会の始まり）</p> <p>13. キャリア・モデルを考える1（グループ・ディスカッション、社会起業家、経営者）</p> <p>14. ライフキャリアの課題（キャリア形成の3つのカーブ）</p> <p>15. 総括セッション キャリア・モデルを考える2（これまでの授業のレビュー、モデリング学習、キャリア・モデル紹介、ゲスト・スピーチ）</p>
6. 産業・職業の理解を高める上での工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義形式だけでなく、キャリアフェスティバルなど行事への参加や、企業人のゲストの話、自己分析の演習、自分のキャリアモデルへのインタビューなど様々な体験を通じて、多面的に理解するものとしている</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>教材ビデオを用いて、座学では把握しづらい、実際に働く場面についての実感を促している</li> <li>リアクションペーパーにコメントを付けて返却することを通して、読み手（主に企業を想定）はどのような観点で文章を評価しているのかを意識付けている</li> <li>授業担当者から頻繁に発問をし、自分の意見を明確に述べる訓練をしている。また、メモを取ることで、意見を発表すること、意見に耳を傾けることなど、マルチタスクをこなす訓練もしている。こうした授業スタイルを取ることで、実際に社会人となったときをイメージした訓練の意味合いを授業に持たせている</li> </ul>
7. 使用するツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己理解のためのワークシート（キャリアデザインノート）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>参考文献：武内清編,2003,『キャンパスライフの今』玉川大学出版部</li> <li>参考資料：武内清(研究代表),2009,『キャンパスライフと大学の教育力』(平成19-21年度文部科学省研究補助金報告書)</li> <li>働く力教材ビデオ（独自開発）</li> <li>リアクションペーパー</li> </ul>

大学におけるキャリア教育プログラムの事例調査 2

	京都産業大学 (私立)	関西大学 (私立)	九州産業大学 (私立)
設置学部	文系・理系 (経済学部、経営学部、法学部、外国語学部、文化学部、理学部、工学部、コンピュータ理工学部、総合生命科学部)	文系・理系 (法学部・文学部・経済学部・商学部・社会学部・政策創造学部、外国語学部、システム理工学部、環境都市工学部、化学生命工学部、総合情報学部、社会安全学部、人間健康学部)	文系・理系 (国際文化学部、経済学部、商学部第1・2、経営学部、情報科学部、工学部、芸術学部)
学生数	12,843名 (2014年5月1日現在)	28,459名 (2014年5月1日現在)	10,504名 (2014年5月1日現在)
キャリア教育の取組方針、導入経緯等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教養教育と専門教育に立脚したキャリア形成支援を、実社会と連携させながら、大学の教育システム全体の中に取り込んでいくという理念の下で取組を進めてきた</li> <li>・本格的なキャリア教育は、2002年の独自開拓のインターンシップの導入に始まる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学部の学生を対象とする一連のプログラムを通じて、学生が将来の働き方・生き方について主体的に考えるよう働きかけ、自律型社会人を育成(社会的・職業的自立)することを目指している</li> <li>・1～2年次の早期から、学生一人ひとりの勤労観・職業観を育成し、自らのキャリアを自ら決定できる力を養うとともに、社会にスムーズに移行して社会に貢献できる力を付けるきっかけを与えることを方針としている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2011年度より、新しいキャリア教育をスタート。「結果として就職が決まる学生生活」の構築をキャリア教育のテーマとしている。</li> <li>・そのために、この20年で日本の社会構造や会社の体制がどう変化してきたか、それにより企業が求める能力がどう変わったか、それと大学での勉強がどう結びついていくのかをきちんと教えていくのが同大学のキャリア教育であり、そして、社会で生きていくための基本的なモノの見方、考え方、基礎知識を身につけてもらおうという切り口でキャリア教育を行っている。</li> </ul>
キャリア教育の特徴	<ol style="list-style-type: none"> <li>①4年間通して一元的に、全学共通教養科目としてキャリア教育を実施(全学部が1キャンパスにある一拠点総合大学)</li> <li>②従来の専門教育など定形型教育で養われる「ハードスキル」と、インターンシップやコーオペ教育など実践系のキャリア形成支援科目(非定形型教育)で養われる「ソフトスキル」の融合を目指している。</li> <li>③社会に出てから感じる「学びの発見」をできる限り在学中に気づかせたいという狙いから、オン・キャンパスとオフ・キャンパスの往復で、学びを深層化させていこうとしている(サンドイッチ方式)</li> <li>④オン・キャンパスでの「キャリア形成支援科目」として、「自己発見と大学生活」「大学生活と進路選択」「自己発見とキャリア・プラン」「21世紀と企業の課題」を開講。オフ・キャンパスでの「キャリア形成支援科目」としては、「キャリア・Re-デザインⅠ・Ⅱ」、「O/OCF-PBL」、「むすびわざコーオペ」を開講。</li> <li>⑤1年次の「自己発見と大学生活」はポータル科目として位置づけ、できるだけ多くの学生が履修できるように、学部間で時間割の配置を調整し、また、入学者オリエンテーションなどの際に、履修するように呼びかけている</li> <li>⑤「自己発見と大学生活」の担当教員は、すべて各学部所属の正規の教員を割り当て、毎年担当する教員をローテーションし、全学的な取組と位置づけている</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①関西大学キャリア教育プログラム(K-CEP) 「大学の前に・大学とともに・大学の後に」をコンセプトに、大学入学前、在学中、卒業後の3段階に渡るキャリア教育に取り組んでいる。在学生を対象とする部分である「大学とともに」では、「キャリア支援V段階システム(V-STEP PROCEDURE)」と名付けた5段階のキャリア形成・就職活動支援プログラムと、キャリアカウンセリング等を実施している。</li> <li>②キャリアセンターの取組 正課外の教育プログラムとして、キャリアセンターも1年次からキャリアの意識を啓発する各種セミナーを実施するなどの支援を行っている</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①1年生のほぼ全員がキャリア教育を受けること</li> <li>②3年生の後期にもキャリア教育の講義を行うこと</li> <li>③入学直後から将来を見据えたキャリア教育を実施しており、1年次からの段階的なキャリアデザインの構築を目指していること</li> <li>④キャリア支援センターの充実した設備とサポート。基礎教育センター、学部教育、キャリア支援センターの3者が連携してキャリア教育を推進。</li> </ol>
特色あるキャリア教育プログラム 1			
1. 名称	「自己発見とキャリア・プラン」	「キャリアデザインⅡ」(仕事の世界)	「キャリア形成基礎論」
2. 概要 ①開講学部	全学部	全学部	全学部
②正課・非正課の別	正課(全学部)	正課(全学部)	正課(全学部)
④必修・選択の別	選択	選択	選択
⑤配当年次・学期	3年次・春学期	2年次・春学期	1年次・前期
⑥時間数	15週	15週	15週
⑦単位数	2単位	2単位	2単位
⑧クラス数	6クラス	3クラス(3キャンパスで1クラスずつ開講)	16クラス

	京都産業大学（私立）	関西大学（私立）	九州産業大学（私立）
⑨履修者数	約 800 名（2013 年度）	約 160 名（今年度、3 クラス合計）	約 2536 名（2014 年度）
⑩担当者・人数	専任教員（実 3 名）	専任教員（延べ 11 名・実 9 名）・非常勤（延べ 2 名・実 1 名）	専任教員（実 2 名）
⑪実施主体	教学	教学	教学
3. キャリア教育の中での位置づけ	・オン・キャンパスでの「キャリア形成支援科目」の 1 つとして位置づけ	・本プログラムを含むキャリア教育科目は、全学部を対象とする共通教養科目としての位置づけ	・選択科目ではあるが、1 年生のほぼ全員が本プログラムを受講
4. 授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が働くことについて具体的なイメージを持ち、キャリアをプランするとはどのようなことを理解することを到達目標としている。さらに、自己概念（自分とは何者か）について、前向きに検討し、進路選択に必要な基本的な心構えを持つとともに、いくつかのキャリア理論を通して、就職活動とは何なのかを理論的に理解することも到達目標の 1 つとしている</li> <li>大学卒業後、社会のなかでの自分が果たす役割を考えさせることを狙いの 1 つとしている</li> <li>「今の情報」（政策動向、統計）を学生に提供し考えさせる（先輩との座談会、企業の基本的な仕事の仕組みと企業情報についての授業、営業の仕事についての授業、キャリアプラン等を含む）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業や職業について、学生が中等教育段階までで十分に学ぶ機会が得られていない現状に鑑み、産業・職業とは何かを教え、労働の世界の現実を教えることが必要だという認識から、開講している</li> <li>情報収集・活用能力を高め、産業・職業・企業についての理解を促進して、履修者の仕事の世界を広げることを目的としている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「就職」の厳しさが報道されている。その背景には何があり、どのような対処が必要なのだろうか？また、「就職」はゴールではなく、スタートに過ぎず、その後の人生を力強く生きていくためには、どのような知識や考え方が必要になるのだろうか？この講義では世界と社会の変化の概要をとらえつつ、職業能力を念頭におきながらそれらに対処する能力や考え方の育成を図る</li> <li>学生生活の諸局面と仕事の中で求められる能力との関係が理解できること、社会に出てからの人生の諸局面において有用な物の見方・考え方が身に付くことを到達目標としている。（業界・職種と企業、仕事と大学での勉強との関連についても授業で取り上げている。）</li> </ul>
5. 授業の構成	<p>（全 15 回）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 進路適性検査「Career Approach」受検</li> <li>3. 進路選択とキャリアプラン～就職活動はキャリアプランニングの手段～</li> <li>4. 目標の力</li> <li>5. キャリアとは、プランとは</li> <li>6. キャリアプランニングの定義とキャリアマインド</li> <li>7. 先輩体験談①（大学を卒業し、社会人として働く先輩との座談会）</li> <li>8. 適性検査の活かし方—自己理解はなぜ必要か</li> <li>9. 何故働くのか—3 つの覚悟</li> <li>10. 人材開発とビジネススキル</li> <li>11. 営業の仕事</li> <li>12. 企業の基本的な仕事の仕組みと企業情報</li> <li>13. 先輩体験談②（就職活動に焦点当てた、先輩との座談会）</li> <li>14. 知っておきたいキャリア理論（これまでの授業をまとめる形で、関連するキャリア理論を紹介）</li> <li>15. まとめ 筆記試験、課題提出</li> </ol>	<p>（全 15 回、千里山キャンパス）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職業を知る <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）産業と職業</li> <li>（2）職業の世界</li> <li>（3）資格と職業</li> <li>（4）職業情報の収集</li> <li>（5）まとめ</li> </ul> </li> <li>2. 業界を知る <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）情報システムと社会</li> <li>（2）人材活用と企業組織</li> <li>（3）技術革新と企業経営</li> <li>（4）経営戦略とリスク</li> <li>（5）まとめ</li> </ul> </li> <li>3. 企業を知る <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）職場と仕事</li> <li>（2）新しい人事制度</li> <li>（3）能力開発とキャリア発達</li> <li>（4）企業情報の収集</li> <li>（5）まとめ</li> </ul> </li> </ol>	<p>（全 15 回）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. なぜ、就職活動に失敗するのか。「就職のための学生生活」「結果として成功する学生生活」との違い（就職活動失敗の諸局面、選考と学生生活の関係、エントリーシートにみる諸要素）</li> <li>3. 「我々はどのような時代を生活しているのか？」現代社会の位相と源流 パート①（20 年前には無かったキャリア教育、それがなぜ生まれ、必要となるのか）</li> <li>4. 「我々はいまどのような時代を生活しているのか？」現代社会の位相と源流 パート②（今後の社会を予測する。人類で初の状況を前にして如何なる準備が必要なのか）</li> <li>5. キャリア支援センターから</li> <li>6. 戦後の日本経済、世界政治の枠組みを俯瞰し、今後の潮流を考える。</li> <li>7. レジュメによる前半の総集編</li> <li>8. グローバル社会と IT 化の実例（NHK の番組から）前編（キャリアショック、問われる仕事、会社の仕事の変貌）</li> <li>9. SPI2 模擬試験（基礎学力の重要性を認識する）</li> <li>10. グローバル社会と IT 化の実例（NHK の番組から）後編（要素価格均等化、コスト意識、仕事の付加価値化、合成の誤謬）</li> <li>11. エートスの変容と時代認識（時代背景の変遷と仕事に求められる能力、および学生生活との関連を理解する）</li> <li>12. 業界・職種と企業、仕事と大学での勉強との関連</li> <li>13. 社会人基礎力の概念説明とライフラインチャート</li> <li>14. 教養とは何か？（キャリア形成における教養の重要性）</li> <li>15. 試験と講義の総括</li> </ol>
6. 産業・職業の理解を高める上での工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会のなかでの自分が果たす役割（職業人としての役割に限らず）を考えさせている。</li> <li>自分が働くことについて具体的なイメージを持ち、キャリアをプランするとはどのようなことを理解することを到達目標としている。さらに、自分とは何者かを前向きに検討</li> </ul>	<p>（特に「職業を知る」について）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生の産業・職業の世界を広げることを目的に、様々なツールを用いたワークを取り入れている</li> <li>職業興味チェックリスト、資格、職業情報など、複数の観点から産業や職業の理解に向けてアプローチし、一面的な</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「やりたいこと探し」「～になるには」などの自分探し・自己分析主体のキャリア教育から脱し、「現状」「原因」「今後の予測」に基づいた「生きていく戦略」を中心に講義するとともに、専門分野の学びとビジネス思考との通有性を解説する。</li> </ul>

	京都産業大学（私立）	関西大学（私立）	九州産業大学（私立）
	し、進路選択に必要となる基本的な心構えを持つとともに、キャリア理論を通して、就職活動とは何かを理論的に理解することも到達目標の1つとしている。 ・先輩との座談会、企業の基本的な仕事の仕組みと企業情報についての授業、営業の仕事についての授業などを取り入れている。 ・座学が中心で、テキストに沿う形で講義を中心に進めるが、テーマに応じて、ワークを取り入れながら実施する。	理解を避ける仕掛けにしている ・職業の世界や労働の現実を知ると同時に、それとの係りで自分を理解するという意図をもって取り組んでいる	・知識を与えて教えるだけでなく、触媒の役割が大事。 ・本学の卒業生が就職する可能性が一番高い営業や販売の仕事について、なぜコミュニケーション能力を企業が求めるのか、営業におけるコミュニケーション能力とはどのようなものであるか等の話をする。 ・講義形式はまずは基本的な力をつけるため座学としている
7. 使用するツール	・進路適性検査「Career Approach」 ・テキスト：東田晋三, 2008『自分の説明書の作り方 2010 — 就職活動を貴重な体験とするためのキャリアプランニングのススメ』近代科学社	・DPT テスト（職業興味チェックリスト） ・職業ハンドブック・職業ガイドなどの職業データベース、職業図鑑 ・各種資格ガイド ・職業分野表：職業を12の分野に分け、各分野と関連の強い具体的な職業例をリストアップしたもの（独自開発） ・CAP システム（独自開発）	・SPI2（代表的な入社試験） ・統計データを多用したオリジナルのレジュメを作成  ・クレペリンは導入していない ・性格適性検査は導入していない（学生の思い込み・刷り込みになりがちのため）
<b>特色あるキャリア教育プログラム2</b>			
1. 名称		「職業指導科教育法（一）、（二）」	「キャリア形成戦略」
2. 概要 ①開講学部		社会学部	全学部
②正課・非正課の別		正課（社会学部）	正課
④必修・選択の別		選択	選択
⑤配当年次・学期		2年次・春学期（一）／秋学期（二）	3年次・後期
⑥時間数		各15週	15週
⑦単位数		各2単位（通年で4単位）	2単位
⑧クラス数		1クラス	16クラス
⑨履修者数		若干名（今年度）	約1435名（2014年度）
⑩担当者・人数		専任教員（1名）	専任教員（実2名）
⑪実施主体		教学	教学
3. キャリア教育の中での位置づけ		・中等教育段階に「職業指導科」という教科が事実上ないにもかかわらず、教育職員免許法に定められた「職業指導科」の教員免許に対応する授業科目。一方、キャリア教育に対応した教員免許はなく、「キャリア教育の教育法」を教える科目を開講している大学等は見当たらないことから、関西大学ではこの授業科目を「中学校・高校でのキャリア教育をどのように教えるか」をテーマに開講 ・キャリア教育の教育方法を学ぶと同時に、学生自身のキャリア教育にもなるという相乗効果を期待	・受講率62%、2年前に「キャリア形成基礎論」を受講した学生数に対し82.6%（2014年度目標90%には未達）
4. 授業の概要		・（一）では、生徒理解・自己理解を主なテーマとして、アセスメントツールの活用やロールプレイングなど実習的要素を盛り込んで授業を展開している ・上記に加え、具体的な学校における相談場面を想定し、教員として生徒に対する、アセスメントツールを用いたロールプレイング実習も取り入れている ・（二）では、職業理解を主なテーマにして、職業情報とはどのようなものかを伝え、実際に職業情報を調べさせる実習などを行っている。最終的には、中学生・高校生を対象と想定した、職業をテーマにした模擬授業を実施する	・就職対策に特化。就職活動で実際に直面するようなこと（エントリーシートの記入、インタビュー等）を模擬的に体験させている。ただし、そのことと併せて、職業観、社会観も提示し、その後の社会人生活に必須の考え方を体得させようとしている。 ・就職活動に必要な知識、能力が身につくとともに効率的で効果的な就職活動が可能になることを到達目標としている ・12月よりスーツ着用を義務づけ
5. 授業の構成		（職業指導科教育法（一）、全15回） 1~3. 職業指導科という教科の意義・目標・内容（1）～（3） ・学校教育における職業指導・進路指導、職業指導と職業教育、職業教育の意義について解説	（全15回） 1. 最大のチャンスとしての「新卒」就職活動 （新卒求人倍率、若年失業率の他国との比較、国内年代別失業率との相関などから「新卒」就活の優位性を認識する）

	京都産業大学（私立）	関西大学（私立）	九州産業大学（私立）
		<p>4~7. 職業指導における生徒理解・自己理解（1）～（4）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・VRT（職業レディネス・テスト）やSDS キャリア自己診断テストなどを用いた授業</li> </ul> <p>8~11. 職業指導における心理テストの活用（1）～（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理テストの採点と結果の解釈、結果のフィードバック、活用の留意点などを解説</li> </ul> <p>12. 職業適性と職業適合性</p> <p>13. 適性の測定と限界</p> <p>14. 心理テストとカウンセリング</p> <p>15. まとめ</p> <p>（職業指導科教育法（二）、全15回）</p> <p>1~6. 職業指導における職業情報の活用（1）～（6）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業情報の機能、職業情報の収集と活用、職業情報としての職業分類、アメリカにおける職業情報の開発、日本における職業情報の開発、CAGC システム</li> </ul> <p>7~9. 学習指導案の作成（1）～（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業理解のプログラム開発、学習指導案の基本、学習指導案に基づく授業展開</li> </ul> <p>10~12. 模擬授業の実施（1）～（3）</p> <p>13~14. 授業の改善と教材開発（1）～（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・OHBY カードを用いて、職業カード技法を用いて</li> </ul> <p>15. まとめ</p>	<p>※社会人のキャリア形成の観点から、冒頭の40分を利用して薬物使用防止の講話をいただく。（福岡県警薬物・銃器対策課、演題「学生の薬物被害ディフェンス策」）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>アンケートシートの記入、就職試験の種類と構造、今後のスケジュールについて</li> <li>社会変動と企業の求める人材要件の変化について①（人材の3層化、フリーター問題）</li> <li>社会変動と企業の求める人材要件の変化について②</li> <li>エントリーシート作成と自己分析①</li> <li>エントリーシート作成と自己分析②</li> <li>業界の現状と今後の展望 （代表的な業界の現状と今後の展望を理解し、興味関心のある業界を研究する）</li> <li>面接試験の種類と構造（選考段階における狙いと対策）</li> <li>キャリア支援センターから</li> <li>職業観と人生観(働くという事、組織への貢献と自己実現)</li> <li>グループワーク① （ワークシートを利用した相互批評）※12月よりスーツ着用</li> <li>グループワーク② （インタビュー、マナー、話法、受け答えを中心に簡易的な模擬面接を行う）</li> <li>社会人基礎力の概念説明とライフラインチャート</li> <li>グループディスカッション② （役割と発言、要約・コメント・段取りについて）</li> <li>試験と今後のスケジュールについての解説を行う</li> </ol>
6. 産業・職業の理解を高める上での工夫点		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種の職業適性テストをツールとして用いている</li> <li>・ 各テストの根拠となっている理論や考え方も教えている</li> <li>・ これらにより、教員になったときに、適性テストの結果を鵜呑みにして生徒を指導することのないように、また、学生自身がキャリアを考えていく上で、適性テストの結果を客観的に捉えられるようにしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職対策に特化。就職活動で実際に直面するようなこと（エントリーシートの記入、インタビュー等）を模擬的に体験させている。ただし、そのことと併せて、職業観、社会観も提示し、その後の社会人生活に必須の考え方を体得させようとしている。</li> <li>・選考方法を通じて、なぜ企業からそのような能力等を求められるのかを考える。</li> <li>・「業界の現状と今後の展望」として、代表的な業界の現状と今後の展望を理解し、興味関心のある業界を研究する授業を設けている。</li> <li>・スクール形式（座学）を基本とする1年次の「キャリア形成基礎論」と違い、グループワークやディスカッションを授業に取り入れている</li> </ul>
7. 使用するツール		<ul style="list-style-type: none"> <li>・VRT（職業レディネス・テスト）</li> <li>・SDS キャリア自己診断テスト</li> <li>・GATB（厚生労働省編一般職業適性検査）</li> <li>・OHBY カード</li> <li>・CAP システム（独自開発）</li> <li>・ワークシート（独自開発）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エントリーシート</li> </ul>